

精魂込めて

— 魂を育み、共に生き合う学校 —

今からおよそ30年前、私は川之江南中学校に新規採用で赴任し、教職人生の第一歩を踏み出しました。大学を卒業してすぐ、初めて暮らす川之江の地で始まった毎日は、すべてが新鮮で、期待と不安が入り混じった日々だったことを昨日のここのように思い出します。若さゆえに勢い余り、知らず知らずのうちに周囲の皆様にご迷惑をおかけしてしまったことも、今振り返ると胸が痛む思いでいっぱいです。それでも、心の奥に残っているのは、失敗さえも包み込んでくれた温かな空気と楽しく実に充実していた日々の記憶です。

生徒たちはみんな元気で素直で、毎日こちらが元気をもらうほど愛らしい存在でした。保護者の皆様もまた、生徒たちに負けないくらい温かく、学校を大切に想ってくださっていたことを今でもはっきりと覚えています。そして何より、同僚の先生方に恵まれたことが、私にとって何より心強い支えとなっていました。「こんなにもやりがいがあり、幸せを感じられる仕事があるのだ」そう素直に思わせてくれた川之江南中学校での四年間は、今も私の教職人生の原点であり、かけがえのない宝物です。

担任として、そして部活動の顧問として、生徒たちと過ごす時間は本当に長く、日々の一つひとつに全力で向き合っていたように思います。授業に真剣に取り組むこと。清掃や奉仕的な活動にも心を込めて取り組むこと。時間を守り、集団生活の中で互いを思いやるための約束を大切にすること。身の回りの環境を整え、道具や教材を丁寧に扱い、挨拶や礼儀を大切にすること。どれも特別なことではないかもしれませんが、しかし、その「当たり前」を生徒たちと共に積み重ねてきた日々こそが、今思えば、かけがえのない学びの時間だったのだと感じています。

参観日には、当時出会った生徒たちが、今度は保護者として学校に足を運んでくださいました。久しぶりの再会でしたが、かつて一生懸命に共に生き合った生徒たちです。多くを語らずとも、ふとした表情や立ち居振る舞いの中に、あの頃の面影が重なり、胸が熱くなるひとときでした。生徒と教職員の関係は、卒業とともに一つの区切りを迎えます。しかし、中学校で過ごした日々は、記憶の中だけでなく、目には見えない「魂」として、確かに一人ひとりの中に生き続けている。そう感じています。

この校長だよりのタイトルにある「魂」という言葉には、中学校生活を通して培われる、どんな時代でもたくましく生き抜くための「自立の力」への願いを込めています。日々の教育活動に一生懸命取り組む中で、川南生として育まれてきた力、そしてこれからも大切に守り、育てていかなければならない力を表しています。生徒たちはやがて、一人の人間として、変化の激しい社会へと歩み出していきます。私たち教職員が、いつまでもそばで支え続けることはできません。だからこそ、この三年間で、自分の足でしっかりと立ち、安心して巣立っていける「魂」を育ててほしいと、心から願っています。

学校教育目標「共に生き合い いのち輝かせる生徒の育成」を実現するために、教職員だけでなく、主役である生徒たち、地域の皆様、そして保護者の皆様と手を取り合い、共に生き合う学校づくりを進めていきたいと考えています。これからも川之江南中学校が、一人ひとりの「魂」を大切に、大切に育む場所であり続けられるよう、皆様と共に力を尽くしてまいります。